

2023 年度 研究センター事業報告書

| | |
|---------|----------------|
| 研究センター名 | 加藤周一現代思想研究センター |
|---------|----------------|

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究センターの実施した全ての研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこなうだけでいいわけではなく、やすく記述してください。

① 加藤周一文庫所蔵資料のデジタル・アーカイブ化

2023 年度も、以下の加藤周一文庫所蔵資料をデジタル・アーカイブ化した。

デジタル化ノート: 「Modern Jap. History (1900-1945)」 「Sociology Modern Jap. History(1945-)」 「Lit. Japonaise (Theorie)」 「主観主義」「死」「Oriental Arts (Japanese I)」 「Oriental Arts (Japanese II)」 : 公開時期:2024 年 3 月

② 2023 年度『加藤周一現代思想研究センター報告』創刊号の刊行

2023 年 3 月の「創刊準備号」に引き続き、同年 12 月に「創刊号」を刊行した。さらに『加藤周一現代思想研究センター報告』第 2 号の準備を始めた。

③ 2023 年度「グラスルーツ支援制度」での活動

2023 年度「グラスルーツ支援制度」の支援を受け（「加藤周一学の確立をめざして——教職員・院生学生・市民による共同研究——」 代表:加國尚志）、『書こう！加藤論』の刊行(2024 年 3 月 22 日)、「見た、聴いた、読んだ！加藤ワールド・ツアー」などの企画を実施した。前者は一般から募った加藤論を論集として刊行するもので、総勢 26 名の市民・院生の投稿があり、中国の大学院生も応募した。加藤周一研究に一般市民を巻き込む効果があった。また後者は、「加藤所縁の江戸路ツアー」と題して、加藤周一にゆかりのある渋谷・上野毛・田園調布の各所を市民と見て回るものであった(2024 年 3 月 9 日実施、参加者3名)。

④ クラウド・ファンディングの実施

講談社ブルーバックスのプラットフォームを利用し、「加藤周一「書簡・写真」のデータベースを構築しよう—そこから加藤の交友関係が見える」と題してクラウド・ファンディングを実施し、85 名のサポーターから総額 1827000 円の寄付を得た。

⑤ 外部資金の獲得

半田侑子研究員が、三島海雲記念財団主催「2023 年度学術活動支援」(採択:2023 年 1 月 18 日:助成学術活動名称:「中国における加藤周一『雑種文化』の受容シンポジウム」 助成金額: 50 万円)に採択された。

半田侑子研究員が科研費基盤研究(C)(研究課題名:「書簡から読み解くマチネ・ポエティック——中村真一郎・福永武彦・加藤周一の詩と思想」: 交付予定額: 350 万円: 期間: 24 年度 ~26 年度の 3 年間)に採択された。

⑥ 公開講演会の実施

第7回加藤周一記念講演会として講師に池辺晋一郎氏をお迎えし、「政治とは日々の生活」と題してご講演いただいた(2023 年 10 月 7 日 14:00 より 衣笠キャンパス以学館 1 号ホール)。

⑦ 公開講読会の実施

2019 年より実施している『羊の歌』公開講読会を 2023 年度も実施し、計 11 回の講読会を開催した(於: 平井嘉一郎記念図書館カンファレンス・ルーム)。通算で4年を超え40回に達する長寿の企画となった。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2024年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、必ず若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

| 役割 | 氏名 | 所属 | 職位 | |
|-----------------------|---------------------------------------|-----------|-----------|----------|
| センター長 | 加國 尚志 | 文学部 | 教授 | |
| 運営委員 | 小関 素明 | 文学部 | 教授 | |
| | 岡本 雅史 | 文学部 | 教授 | |
| | 北村 順生 | 映像科学部 | 准教授 | |
| | 福間 良明 | 産業社会学部 | 教授 | |
| | 鷺巣 力 | 衣笠総合研究機構 | 研究顧問 | |
| | 西岡 亜紀 | 文学部 | 教授 | |
| 学内教員 (専任教員、研究系教員等) | 中川 成美 | 文学部 | 特任教授 | |
| | 根津 朝彦 | 産業社会学部 | 准教授 | |
| | 住田 翔子 | 産業社会学部 | 准教授 | |
| 学内の若手研究者 | 専門研究員 研究員 初任研究員 | 半田 侑子 | 衣笠総合研究機構 | 研究員 |
| | 補助研究員・リサーチアシスタント | | | |
| | 大学院生 | 西澤 忠志 | 先端総合学術研究科 | 一貫制博士課程 |
| | | 福井 優 | 文学研究科 | 博士課程後期課程 |
| | | 蛭子 良風 | 文学研究科 | 博士課程後期課程 |
| | | 落合 優翼 | 文学研究科 | 博士課程後期課程 |
| | | 齋藤 由紀 | 文学研究科 | 博士課程前期課程 |
| | | 苧野 美雪 | 文学研究科 | 博士課程前期課程 |
| | 学振特別研究員 (PD・RPD) | | | |
| | その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・博士前期課程院生等) | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | 客員協力研究員 | 彭 佳紅 | 帝塚山学院大学 | 教授 |
| ジュリー・ブロック | | 京都工芸繊維大学 | 名誉教授 | |
| 桜井 均 | | 映像ジャーナリスト | | |
| 川口 雄一 | | 成蹊大学・創価大学 | 非常勤講師 | |
| 龍澤 武 | | 東アジア出版人会議 | 理事 | |
| 樋口 陽一 | | 東京大学 | 名誉教授 | |
| 三浦 信孝 | | 中央大学 | 名誉教授 | |

| | | | |
|----------------------------------|-------|------------------------|------------|
| | 石塚 純一 | 札幌大学 | 名誉教授 |
| | 宮村 治雄 | 成蹊大学アジア太平洋研究センター | 客員研究員 |
| | 片岡 大右 | 慶應義塾大学 | 非常勤講師 |
| | 落合 勝人 | 株式会社集英社 | 新書編集部編集長 |
| | 李 成市 | 在日韓人歴史資料館 | 館長 |
| | 山口 智也 | NHK 制作局 | チーフ・ディレクター |
| | 金子 元 | 秀明大学 | 非常勤講師 |
| | 山辺 春彦 | 東京女子大学 | 講師 |
| | 孫 歌 | 中国社会科学院文学研究所 | 研究員 |
| | 王 中忱 | 清華大学 | 教授 |
| | 林 慶澤 | 韓国国立全北大学校 | 教授 |
| | 翁 家慧 | 中国北京大学 | 副教授 |
| | 岩津 航 | 金沢大学 | 教授 |
| | 劉 争 | 関西国際大学 | 専任講師 |
| | 平石 知久 | (公財)ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 | 研究員 |
| | 石 運 | 重慶大学 | 講師 |
| その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等) | | | |
| | | | |
| | | | |
| センター構成員 計 40 名 (うち学内の若手研究者 計 7名) | | | |

Ⅲ. 研究業績 (公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2024年3月31日時点)

| 1. 著書 | | | | | | | | |
|-------|-----|----------------------------|---------|--------|----------------------|-----------|-----------|--|
| No. | 氏名 | 著書・論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行年月 | 発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称 | その他編者・著者名 | 担当頁数 | |
| 1 | 鷲巣力 | 増補改訂 加藤周一を読む：「理」の人にして「情」の人 | 単著 | 2023 年 | 平凡社 | | 総 448 ページ | |

| 2. 論文 | | | | | | | | |
|-------|----------------|--|---------|-------------|--------------------------|-----------|-------------|------|
| No. | 氏名 | 著書・論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行年月 | 発行所、発表雑誌、巻・号数 | その他編者・著者名 | 担当頁数 | 査読有無 |
| 1 | 岡本雅史 | 語りに伴う睥睨の奥にあるもの—オラリティとしての加藤周一の思想を求めて | 単著 | 2023 年 12 月 | 加藤周一現代思想研究センター報告 | | pp. 83-91 | 無 |
| 2 | 加國尚志 | 鷲田清一とメルロ・ポンティ—「スタイル」の現象学 | 単著 | 2023 年 4 月 | 現代思想 51 巻 5 号 総特集 鷲田清一 | | pp. 250-263 | 無 |
| 3 | Kakuni Takashi | Lecture de l'Esthétique de Hegel par Merleau-Ponty | 単著 | 2024 年 3 月 | Chiasmi international 25 | | pp. 143-152 | 無 |

| | | | | | | | | |
|---|------|---|----|----------|------------------------------|--|-------------|---|
| 4 | 半田侑子 | 大江健三郎とそのミクロコスム | 単著 | 2023年 | ユリイカ 55巻10号 | | pp. 530-540 | 無 |
| 5 | 半田侑子 | 近代日本知識人の「母」——加藤周一の母・ヲリ子と「無限の愛情の中心」 | 単著 | 2023年12月 | 加藤周一現代思想研究センター報告 創刊号 | | pp. 113-146 | 無 |
| 6 | 半田侑子 | 「日本文化の雑種性」から捉え直すマチネ・ポエティックと加藤周一 | 単著 | 2024年1月 | 『立命館大学人文科学研究所紀要』 137号 | | pp. 175-205 | 有 |
| 7 | 小関素明 | 「戦争体験」の思想化の苦闘—「絶望」を原点にした精神の寄留地の構築— | 単著 | 2024年1月 | 『立命館大学人文科学研究所紀要』 137号 | | pp. 207-243 | 有 |
| 8 | 小関素明 | 災害と人文社会科学が向き合うべき課題—災害は民主政治にどのような影響を及ぼすのか— | 単著 | 2024年3月 | 『立命館大学人文科学研究所紀要』 138号 | | pp. 25-42 | 有 |
| 9 | 小関素明 | 大学における教養教育の課題についての経験的考察—歴史学からの模索— | 単著 | 2024年3月 | 教養教育研究会編『現代社会を拓く教養知の探求』 晃洋書房 | | pp. 62-80 | 無 |

3. 研究発表等

| No. | 氏名 | 発表題名 | 発表年月 | 発表会議名、開催場所 | その他発表者名 |
|-----|------|--|---------|---|---------|
| 1 | 鷺巣力 | 加藤周一と日本文学—『日本文学史序説』への道 | 2023年9月 | 清華大学創作・研究センター及び中国言語文学部 北京大学外国語学院日本語学部(招待講演) | |
| 2 | 鷺巣力 | 加藤周一と日本文化—「雑種文化論」への道 | 2023年9月 | 清華大学創作・研究センター及び中国言語文学部 北京大学外国語学院日本語学部(招待講演) | |
| 3 | 小関素明 | 書評: 小路田泰直著『講座: わたしたちの総合歴史 6 日本史の政治哲学—非西洋的民主主義の源流—』かもがわ出版、2023年 | 2023年6月 | 近代日本思想史研究会、立命館大学(京都衣笠キャンパス) | 斎藤恵美 |
| 4 | 小関素明 | 今回の能登半島地震の何を、どう問題にすべきなのか | 2024年3月 | 2024年能登半島地震と戦後日本の地域開発研究会、立命館大学(京都 衣笠キャンパス) | |

4. 主催したシンポジウム・研究会等

| No. | 発表会議名 | 開催場所 | 発表年月 | 来場者数 | 共催機関名 |
|-----|-----------|---------|----------|------|-------|
| 1 | 加藤周一記念講演会 | 衣笠キャンパス | 2023年10月 | 100名 | |
| 2 | | | | | |

5. その他研究活動(報道発表や講演会等)

| No. | 氏名 | 研究業績名 | 発表場所等 | 研究期間 |
|-----|----|-------|-------|------|
| なし | | | | |

6. 受賞学術賞

| No. | 氏名 | 授与機関名 | 受賞名 | タイトル | 受賞年月 |
|-----|----|-------|-----|------|------|
| なし | | | | | |

